

組合設立:1946年 *aiming for the* **金沢市従労NEWS** *80th Anniversary*

組合本部所在地:〒921-8026 石川県金沢市糸田新町1-30

団結

**Never**

苦渋の選択により  
一時避難で離れ離れに...

**Give Up**

戻ってくる時期は.....  
落ち着けば戻って来られるかな!!

金沢市の職員として、今回の能登半島地震における輪島市および志賀町への派遣が決定し、1月16日(火曜)に本庁舎前で出発式が行われ、各避難所等を巡回し、ごみ収集を円滑に行うため、東・西管理センターから収集車2台(2名乗車)が順次、被災地への支援活動に尽力を尽くすなかで、焼却施設の運用や交通事情および道路状況も著しく支障がある箇所を通行する場面もあり、余震や積雪等での現地制限も伴い、支援活動にも断水や停電の影響もあることから、とにかく今出来ることを最優先に取り組み、少しでも早くごみを収集し、処理(運搬)することを進めている状態です。



元旦に起きた能登半島地震では、最大震度7を観測し、被害等が予想以上に拡がりを見せており、特に輪島市および珠洲市における全容は、約1ヶ月を過ぎた今も各集計等が追い付かない状態にあります。

今回の地震では、多くの家屋が倒壊し、長時間下敷きになる被災者を含め行方が分からない方も多数おり、搬送先や避難所等でも災害関連死と見られる方々、様々な感染症(コロナ・インフルエンザ・ノロ・食中毒等)も拡がり、衛生環境も含めた普段生活を十分に整えられる対策等も行き届かない状況下にあります。

被災地に目を移せば輪島市の「朝市通り」周辺が地震と津波、そして火災による『複合災害』が起き、大規模火災として壊滅状態となって約200棟が焼失、多くの人命が一瞬にして奪い去られていきました。



振り返れば、東日本大震災(2011.3.11)も最大震度7を記録する揺れが起き、沿岸部を襲った大津波によって死者・行方不明者が約2万2000人以上を超える大災害となり、福島第一原子力発電所からの放射性物質が放出され、現在も約10万人の地域住民が居住地域の立入りを禁止され、やむなく避難生活を強いられている深刻な状況を招きました。幸いな事に、今回の能登地震では志賀原子力発電所からの放射性物質の放出は、今のところ確認されていません。

一方で、北陸における本格的な冬の到来により、警報級の大雪(大寒波)による積雪情報により、更なる建物・家屋倒壊の危険性も叫ばれる緊迫状態にも...今も連日続く「余震」の多さに、昨年来から不安と緊張状態の中で気の休まる間もなく、今後も避難生活の長期化は避けられない中で、無意気のうちに身体にも力が入る感覚が襲い、不眠や栄養不足の面から免疫力の低下を招き、思いも寄らぬ病気や風邪、度重なるストレスから精神疾患等へと繋がりが兼ねません。



重要 Point **今は目標を持って 2024 年を前だけ見て ゆっくり前進!!**



**HELP**  
全国からの心強い支援の(輪)



【名古屋市】<環境局・災害支援隊>  
災害廃棄物(避難所・生活ごみ)の収集・運搬に携わる。  
～1月における支援先～  
⇒穴水町・中能登町・志賀町・七尾市他  
[大規模災害時の派遣(支援)への対応]  
環境部・環境隊(災害支援隊)が災害対策業務(災害ごみ収集)を行う。



名古屋市・災害支援隊



横浜市・資源循環局

【横浜市】<資源循環局>  
災害廃棄物(避難所・生活ごみ)の収集・運搬に携わる。  
～1月における支援先～ ⇒輪島市・珠洲市・能登町他  
[大規模災害時の派遣(支援)への対応]  
環境省所管のD.Waste-Net(災害廃棄物処理支援ネットワーク)を活用し、被災地での災害廃棄物を現地職員・ボランティア等と協力しながら、撤去および仮置場・焼却施設(工場)への搬送をし、経験を活かした調整力で混乱なくスムーズな支援を心掛け、何より『被災者に寄り添う』作業に努めている。  
★ 災害用トイレトレーラーを避難所に設置(輪島市:指定避難所・鶴巣小学校内)

【神戸市】<環境局>  
災害廃棄物(避難所・生活ごみ)の収集・運搬に携わる。  
～1月における支援先～ ⇒輪島市・珠洲市・能登町他  
[大規模災害時の派遣(支援)への対応]  
大規模災害発生時に災害廃棄物を迅速・的確に処理を実施するための『教育訓練』を計画的に行っている。特に、これまでの東日本大震災や熊本地震など大規模災害時における被災地支援の経験を共有・継承しながら、平常時から研修会・図上訓練等に参加し、知識やノウハウの蓄積に努めています。



神戸市・環境局

公務員に対する世間の批判も含め、これまで民間委託化を推し進めてきた経緯もあり、現業職の定数削減・臨時職員や再任用職員等の割合増加に伴った結果、やはり“いざという場面(局面)”では正規職員が激減している点が絶対的に後手に回り、ただでさえ日々の市民サービス低下を招かぬ対応をしながらの支援活動には限界があります。そこに、全国各地からの多くの自治体職員(現業)仲間がそれでも『支援をしたい!!』と強い意志を持って、今回の能登半島地震における、被災者に寄り添う支援活動に賛同してくれるのは非常に胸が熱くなる思いであります。



特に神戸市の支援では、阪神大震災(平成7年)の経験を活かせる神戸市の元職員(元消防局長)らも救助活動や建築物の復旧・復興作業に関わった知見を活かすべく、長期的な支援を考えた上で、特に被害が甚大であった輪島市および珠洲市等での現地(現状)調査をはじめとする『被災地ニーズ』に寄り添った支援を模索していく方向で動いています。今後は、数多くの瓦礫の撤去作業をはじめ、様々な不用品となる「災害ごみ」をいち早く処理・運搬する作業が重要となることは間違いなく、日を追う毎に被災地への活動内容も変化をしていきます。

何より恐いのは『災害大国・ニッポン』に住んでいる我々は、次の災害がいつ、どんな形で襲い掛かって来てもおかしくないのです。それは大地震なのか? それとも大被害なのか?..... 誰にも予想(想定)できない範囲で起こりうる無限ループによる、まさに環境汚染問題にも直結し、我々ひとり一人がいくら地球環境に優しい取り組みに日頃から励んでも、所詮は「人間は無力」でしかないし、今の現実を受けとめ、悲しみも苦しみも受け入れるしかないのかも知れません。困っている人・苦しんでいる人を助けられる社会は理想郷です。

しかし、誰でも人を助けられる訳ではありません。心身が弱く疲労している人は、誰かを助ける前に自分自身が助けを必要とする立場になるかも知れません。大きな応援(支援)に拘らず、小さな応援(支援)で十分に相手に伝わります。大切なのは「無関心」にならない事です。

